

あのね、保育の根 No.9 ~しゅかんのあたより~ 12月



前回の私のお話は、実体験を元に“誰しも得意なこと苦手なことがある、やらないという選択をした時どう受け止めるか”というような内容でした。

社会に出れば、苦手だけれど向き合わなければならない場面に出会うこともあります。それぞれに自分らしさや特性があるのは当然ですが、特性と環境とが合わないと苦しさに繋がることがあります。だからもちろん、やらないという選択をしてもいい。ただ、安心できる環境や支えてくれる存在がある中で、一步踏み出した経験が力に変わるきっかけになるかもしれない。そこで今回は「苦手だけれどやってみよう」という“頑張り”についてです。

❁「頑張り！」

誰かが何かに挑戦する時、「頑張り！」と声を掛けたくなりますよね。その言葉が「応援してくれているんだ！」と力になるときもあれば、「やらなきゃ..」とプレッシャーになるときもあります。“頑張る”というのは本人の内側から生まれるもの。こちらが引き出したり支えたりすることはできても“頑張らせる”だけでは気持ちは動かないのではないかと思います。その子の気持ちやペースに耳を傾けながら「やってみよう！」というタイミングを信じて待つ。“頑張らせる”ではなく、その“頑張ってみよう”をどう引き出していくか、が大切なのではないかと思います。

前回の私の実体験の話もまさに同じように、みんなと同じことができずに叱られたことがあったと書きました。当時を振り返ってもらったところ「いつもやってるって聞くし、やったらできるはずなのに何でやらないんだ！」と思っていました。私の親だけが厳しかったのかと言われたら、そうではなく..私(平成初期..笑)、さらに親世代は「負けるな！」とか「本当は辛かつ

たけど頑張ることが当たり前！」という経験をしている方が多いのではないかと思います。

人と同じように行動することが安心と感じられる時もありますが、「みんなと同じでなければ」と思うほど苦しくなってしまうこともあります。自身もそういった経験をしたことがあって、この職に就いている今..私は普段子ども達と関わる時には「なんでみんなと同じことができないの！」ではなく「何が嫌なんだろう？」を探ったり、本人の言葉を聞くことを心掛けています。「人と違っていい」「自分の気持ちを大切にしている」という感覚を消さないようにしていきたいなと思っています。

❁頑張り力の源

こうして誰かに受け止められているという安心感が「失敗しても大丈夫、頑張ってみよう」「もう少しやってみよう」という力の源になるのだと思います。副園長のおたよりで“安全基地”という言葉を用いていましたが、家庭でも園でも同じように、安全基地(安心の土台)があることは頑張り力を支えます。

0~2歳あたりでも“自分の思い”というものはしっかりあります。「小さいから分からないだろう」なんて思っははいけません！..と、かっこいい風に言っていますが、実際は私もうまくいくことばかりではありません。試行錯誤で“頑張ろう”の繰り返しです(安全基地でいてくれるみんなありがとう)。そして「家庭で同じようにやってください」とまでは思っていない..。ただ頭の片隅に置いておいて“そういえば、みほ先生こんなこと言ってたわ~”と思い出していただけならな、と思います。

私たちが意識したいのは「頑張らせること」よりも「頑張りたいと思える関係性を築くこと」！一緒に頑張りましょう！笑